

尾瀬ネットワーク通信



Vol. 17. No.3 2014年11月

—目次—

2014 尾瀬アカデミー開催	1
新指導員紹介	2
特別研修「チョウと花の自然観察」	3
群馬側活動	4
福島側活動	5
事務局だより	6



2014年尾瀬アカデミー 尾瀬自然保護指導員 7名誕生

理事/事務局長 円谷 光行

2000年から毎年開催している「尾瀬自然保護指導員養成講座（＝昨年度より「尾瀬アカデミー」としてリニュアル）が今年も引き続き開講の運びとなりました。また合同研修は10月11-12日の日程で開かれました。

尾瀬アカデミー開講の記事が、福島民友新聞などの地元紙、雑誌「山と渓谷」や日本自然保護協会会報誌に掲載されると、多くの方がたより事務局へお問い合わせをいただきました。

講座は受講者の皆さんより群馬側、福島側の「コース希望選択」の上、臨んでもらいました。宿泊を伴う現地研修が2回、計4日間が必修という、極めてハードなスケジュールにもかかわらず7名のメンバーには真摯に、かつ真剣に尾瀬の歴史や自然を勉強していただきました。

【群馬側】鳩待峠→山の鼻V.C見学・研究見本園→至仏山300m程度登山→アップル泊（座学）/上田

代→中田代→竜宮→山の鼻→鳩待着

【福島側】御池→燧裏林道（上田代・横田代）→段吉新道→赤田代→東電小屋→温泉小屋泊（座学）/赤田代→見晴→段小屋坂→白砂湿原→沼尻→浅見湿原→大江湿原→御池着

【合同研修】（群馬側）大清水→ナメ沢排水口→三平峠→尾瀬沼集合

（福島側）御池→沼山峠→小渕沢田代→尾瀬沼集合

【主な見学場所】負の遺産（ゴミの大量投棄現場）、および沼尻水門、取水口、ヤナギランの丘、尾瀬沼V.C.など。最終日には尾瀬沼ヒュッテにて修了証書が授与されました。

この講座では尾瀬の自然保護や歴史などに関する基礎部分を学んでいただきましたが、今回の受講を契機として、一層の自己研鑽をされるものと信じています。新しく指導員になられた皆さんのが今後のご活躍を大いに期待しています。

新指導員ご紹介

■伊藤広志さん（千葉県市川市在住）

雪が解けて水芭蕉の花が咲き始めると花リレーがスタートする。その花・木々・自然を人間の五感で体感しようと人々が集う空間。今回の研修で、負の財産を見学しました。

我々が出来る事は、負の財産を減らしながら訪れた方が「また来ますね」と自分の心でささやく様な大自然を維持・管理する事が使命だと痛感しました。

■伊藤佳美さん（千葉県市川市在住）

貴重な大自然に触れますます尾瀬が好きになり、残念な現実を知り、これからも尾瀬に関わりたいと強く思った研修でした。そして何より、素晴らしい仲間に出会えた事が一番の大きな喜びです。来年度の活動で皆様にお会い出来ることを待ちにしております。

■佐藤康治さん（福島県福島市在住）

樹林帯の木道を抜けると、一気に目の前に広がる大江湿原。尾瀬沼の水面に写る青空。山肌に雪を残す春の燧ヶ岳。朝霧の尾瀬ヶ原

に伸びる一筋の木道。そんな景色を肌で感じながら、何年もかけて地上に湧き出る伏流水で淹れたコーヒー。すべてが尾瀬の魅力であり、いつまでも残しておかなければいけない景色だと思います。

■須賀邦雄さん（千葉県野田市在住）

今回受講した「尾瀬インターパリター養成講座」を基に、友人知人尾瀬に訪れた方々に自然の素晴らしさ大切さを少しでも理解してもらえるように自己研鑽に励みます。又尾瀬の自然を守る活動にも積極的に参加して行きます。



NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク

■菅野文子さん（福島県白河市在住）

この度尾瀬アカデミーを知り研修に参加して、ずっと憧れていた尾瀬に行く機会に恵まれ、幸せを感じています。想像していた以上の素敵な自然に触れて、活動に参加している方の人柄に触れ、もっとたくさん知りたくなりました。楽しんで勉強していきたいと思います。よろしくお願いします。

■角田 寿さん（群馬県前橋市在住）

（要旨）尾瀬の見方がかわりました。普段はガイドブックに載っている美しい尾瀬しか知らない僕たち。尾瀬の歴史からはじまり環境問題、自然保護問題、ゴミの問題…いろいろなことを知りました。東京電力の尾瀬沼から引いた水路。日本海に流れる水を太平洋側へと人工的に変えてしまいました。2つ目は長蔵小屋のゴミ問題。美しい尾瀬の中にゴミを埋め立てた現場があることにびっくりしました。未だ土の中にゴミの層が残っています。この2つの尾瀬の負の遺産は、ガイドブックには載っていません。これらのこともよく理解したうえで美しい尾瀬を守って行きたいと思います。

■横田隆さん（千葉県我孫子市在住）

講座への参加、尾瀬を愛する講師の方の熱意と知識、同期生同士の交流と友情、何よりも自然保護への思いを与え、すべての事情を整え導いてくださった天地の万物の創造・摂理の神に感謝。美しいものを美しいと感じ、それを守りたいと思うのは人間の本能であろう。その思いを愛へと昇華し、自分に与えられた賜物を以って、自然保護活動に関わって行きたいと強く覚えさせられた講習会であった。



<研修風景>

特別研修「チョウと花の自然観察会」

〈日程〉 平成26年8月1日、2日

〈場所〉 長野県湯の丸（池の平湿原）
と群馬県鹿沢（小桟敷山）

〈参加者数〉 23名

“神秘のチョウ（アサギマダラ）”は、自然を見る窓、自然を映し出す鏡と言われています。三人一組となり、補虫網を持ってアサギマダラを追いかけていると、自然の中にとけ込んでいる自分を再発見出来たのではないでしょうか。

【運営担当】櫻井 博、宮内栄子、宮前和夫

以下、参加者の感想をご紹介します。

「特別研修に参加して」

櫻井 博

蝶への関心はほとんどなかった私ですが、今回の特別研修に参加し、遅ればせながら、蝶と自然との密接な繋がりに興味を覚えました。二日目の活動は講師を交え、池の平湿原の観察とメインの蝶の調査。池の平で昼食後に移動し、小桟敷山でのアサギマダラのマーキング調査は雨のため停滞。一時はどうなることかと思いましたが、雨もやみ、結果としては大成功のマーキング調査となりました。捕虫網を振り回し少年少女のように瞳を輝かせながら蝶を追い、南へ旅立つアサギマダラに思いを託し、31頭のマーキング調査を終えたのでした。閉会式では、古川講師の蝶や自然に対する深い想いに感動しつつ終了。どうもお世話になりました。

みんなに会えて良かった



「特別研修に参加して」

宮内栄子

8月2日に行われた「チョウと植物の自然観察会」に先駆けて、1日の午前11時に地蔵峠駐車場に集合し、湯の丸登山を実施しました。遠方からの参加者も含め全員が登山を希望し、無理のないコースも予定していた幹事にとって、想定外の展開となりました。櫻井さんの先導で、湯の丸ゲレンデを直登するコースは、のんびり草をはべる牛達を見ながら、周囲を一望する急坂を昇る息の切れる行程でした。

休暇村は、夏休みとあって多くの宿泊者があり、バイキングの食堂は大賑わいでした。先輩達の食欲に感化を受けて、お腹一杯食べ、明日のための事前研修を部屋毎に行いました。チョウのマーキングは、私にとって初めての体験であり、楽しく有意義な研修でした。

「湯の丸温泉特別研修」

藤田隆美

池の平湿原を探索した。2班に分かれそれぞれの班にガイドが付いた。ゆるい坂道を登りきると2095mの見晴らしの丘である。三方ヶ峰ではピンク色のコマクサが満開だ。ここから千曲川の流れる小諸市が眼下に広がる。ガイドが島崎藤村の詩「千曲川旅情の歌」を誦んじて披露している様子には感動した。自然と人間の関わりについて、歴史的な事実を踏まえて堂々と語る事などガイドの人間性に好感を持った。群馬側の担当者の方々による下見、周到な計画、詳細な資料の作成などがあり、素晴らしい研修会となった。心からお礼を申し上げたい。

暮行けば浅間も見えず
千曲川いざよふ波の
濁り酒濁れる飲みて

歌哀し佐久の草笛
岸近き宿にのぼりつ
草枕しばし慰む



群馬側（第3回）活動報告

群馬側担当理事 小鮎 守

群馬側担当理事 清水 博之

1. 日時：2014/07/26（土）晴

a.m.7:00～p.m.15:30

2. 場所：鳩待峠/研究見本園/尾瀬ヶ原

3. 概要：

各学校が夏季休暇に入ったことに伴い若者の入山が多い。反面、高齢者のツアーは少なく鳩待峠には観光バスの駐車は見られない。入山案内やゴミ袋の配布を行う。今回の当会員によるリーフレット配布は370部ほどであった。

9時過ぎに入山指導を終了し、チョウの観察調査のため山ノ鼻研究見本園および尾瀬ヶ原に向かう。天候は快晴に近く、見本園や山小屋付近ではヒョウモンチョウやヒカゲチョウを確認することができた。また新リーフレット「尾瀬の昆虫」を通じ、尾瀬の自然環境について会話をすることもできた。



群馬県前橋市より総勢約100名の小学4年生の団体も来ていた。8~10名の小グループに分かれ、そのグループごとにガイドと責任者が付き添い、長蛇にならぬよう配慮しながら入山するグループも散見された。

キンコウカ、ヒツジグサ、ノアザミが最盛期であり、尾瀬ヶ原でハッチョウトンボも確認できた。

4. 参加者

飯沼、伊藤、大山、小鮎、坂本、清水、永島、宮前（以上、8名）

群馬側（第5回）活動報告

1. 日時：2014/10/04（土）曇

2. 場所：鳩待峠 a.m.7:00～9:30

アヤメ平観察 a.m.10:00～p.m.14:30

3. 概要：7時～9時半頃までは、鳩待峠にて入山指導を実施。今年は紅葉が一週間以上早く訪れたこと、翌日には台風の本州接近の予報もあり、多くの入山者で賑わっていた。大型バスは15台以上も峠にあった。7時より尾瀬保護財団とともに、リーフレット350部とゴミ袋の配布をしながら入山指導を行った。

入山指導終了後から、雨天のため延期したアヤメ平の植生復元の状況を観察した。登山道は平成21～24年に木道整備を行ったため悪路もなかった。アヤメ平の植生復元事業は、昭和41年から実施され続けている。本年の



復元作業と思われる箇所もいくつか散見される。

平成12～17年の実施箇所には、年ごとに160～400m²の面積で、ミタケスゲ、ヌマガヤの蒔き付けと移植を行った旨の表示がされている。いずれもネットで流出防止策を施



行していた。

回復状況は、復元効果が見える箇所が約

半分程度であり、順調な所、遅れている所、また全く効果が見えない所もあった。

登降中にレジ袋の半分程度のゴミ回収をした。内容はキャンパーなどの包装紙が主であったが、中にはカメラの付属品やストックのゴム製防護キャップもあった。

4. 参加者

飯沼、大山、坂本、清水、永島
(以上、5名)

■福島側活動報告

指導員 歆田正博

第6回入山指導等の活動

- ① 実施日 2014年10月17日(金)～19日(日)
- ② 10月17日(金) 檜枝岐村の「ひのき屋」に午後5時に集合。ミーティングでは御嶽山の火山災害を受けて、燧ヶ岳は活火山であることをバス添乗解説で若干触れることを確認する。
- ③ 10月18日(土) 晴れ シャトルバス発着広場に活動拠点を設け、午前7時から11時まで入山指導及び啓発活動を行う。昨日は燧ヶ岳に



初冠雪をみるなど荒れた天気だったが、今日は青空が広がり風もない最高のハイキング日和である。紅葉の最盛期を過ぎたが多くのハイカーが訪れた。地元の団体が主催する100kmのコースを16時間以内で歩く(走る)「ウルトラ遠足」の中間チェックポイントが我が拠点の隣に設けられ、広場はいつも増して多くの方で賑わった。

入山指導と並行して沼山峠行のバスに添乗して、当法人の説明や尾瀬に関する情報提供及び入山に当たっての心得などを案内する。

添乗解説では、ブナの原生林が眼下に一望できるビューポイントでバスを停めて、ブナが青々している時期には、上から見るこの景色はブロッコリーのように見えるので、“ブロッコリーの森”と呼ぶ人もいます、などと説明をしている。入山指導等の活動終了後に、落ち葉が舞い散る晩秋のブナの森の自然観察会を樹海ライ

ンに沿った“ブナ平”で実施する。



その後、檜枝岐に下って日本山岳会の創設者で尾瀬を愛し、尾瀬の自然保護運動に尽力された武田久吉先生の記念館を訪れた。展示資料を見るにつれて先生の幅広い行動力と功績を再認識する。

- ④ 10月19日(日) 昨日に続き御池で午前7時から入山指導等の活動を開始した。本日も好天に恵まれ多くのハイカーが入山した。予定していた活動をすべて終了し、午前11時に解散。
(参加者) 飯沼巳好、伊藤アケミ、大山昌克、小林ミヨ、坂本敏子、佐藤秀雄、円谷光行、刀 光男、永島 眞、鍋山智之、歎田正博、藤田隆美 (計12名)



事務局だより

今年度の入山啓発活動や 4 日間にわたる尾瀬アカデミーまた特別研修や調査など、フィールドでの活動イベントは終了いたしました。多くの参加指導員によるご協力のもと事故なく運営ができました。次年度のフィールドでお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。

■日程など

- ・ 2014/11/08 : 第 1 回理事会 : ジャンダルム
(議案) 平成 26 年度活動報告/平成 27 年度活動計画(概案) /平成 27 年度総会日程等
- ・ 2015/02/07 : (予) 第 2 回理事会
(議案) 平成 27 年度活動計画および総会議案など
- ・ 2015/01/下旬 : 昨年および本年に新指導員となられた方々を中心として「新年親睦会」が計画されています。日程は 1 月下旬の週末、福島県内温泉宿泊です(詳細未定)。お問い合わせは藤田理事まで。090-5359-0752

■QR コード(当会ホームページ)

 会報 1P 上段にも掲載した二次元読み取りコードは当会 HP です。カメラ付き携帯電話の大半が QR コード読み取り対応となっていますのでご利用下さい。

■「尾瀬の自然を守る」カードの加入を

お願いします

「地球にやさしいカード」発行の(株)セディナ様は、三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)におけるコンシューマーファイナンス事業の中核企業です。その(株)セディナは CSR(社会貢献)の一環として 1991 年より助成活動を始めています。14 種ある「地球にやさしいカード」の内一つが「尾瀬の自然を守る」カードです。ぜひカードのご加入を検討してください。

寄付のシステム

「地球にやさしいカード」のカードご利用額の中から、セディナ様の負担により 0.5% が自動的に(公益財団法人) 緑の地球防衛基金を通じて保護・研究団体へ寄付されます。

寄付の分配 寄付金額の 30% は各テーマに均等に分配され、残りの 70% はテーマごとのカード利用実績に応じて配分されます。(セディナ HP)

お申込み方法

毎年総会出席者には申込み用紙を配布しておりますが、セディナ様の HP より直接申し込みもできます。また当会の事務局にも、申込み用紙は用意されておりますのでご利用下さい。

・ 詳細は下記 Web で参照してください！

http://www.cedyna.co.jp/eco_repo/index.html

編集後記

あまり新聞に掲載されなく、つい忘がちであるが、アヤメ平では植生回復事業が今でも継続されている。1966 年より今年で 48 年目になるそうだ。草が生い茂るとなかなか裸地は見えにくいが、晩秋になると裸地の状況がよく見える。アヤメ平に限れば半分くらいの土壌には何かしらの草の根は残っているが、残り半分は裸地のままだ。約 50 年間の費用、労力は莫大なものとなっているだろう。それでも解決先が見えない。観光化とは随分と罪作りなものだ。(大山)

NPO 法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.17 No.3 2014 年 11 月 20 日

発行人: 永島勲

編集担当: 大山昌克

Web 担当: 鈴木誠一

■本部事務所(事務局)

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町 19 円谷方

電話/FAX0248-94-5003

■群馬支部

〒370-0001 高崎市中尾町 762-16 清水方

電話 027-361-8055

Web: <http://www.oze-net.com/>

お問い合わせ

info@oze-net.com<info@oze-net.com